

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する時代に「ゼロ・プラス・ワン（0 + 1）」をモットーに、

学び続け、変わり続けることの出来る生徒を育てる学校をめざします！

本校は、「ゼロ・プラス・ワン（0 + 1）」を合言葉に、前例にとらわれず「ゼロベース」で考え、失敗を恐れず、失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気をもって前を向いて一步を踏み出すことのできる生徒を育てたい、育ってほしい、と願っています。また、「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、論理的思考力・批判的思考力等の 21 世紀型スキルを身につけます。

① 「知的好奇心のかたまり」 ② 「ゼロベース思考」 ③ 「失敗を恐れないチャレンジャー」

こんな生徒を育てたい、こんな生徒に育ってほしいと願い、学び続け、変わり続ける全教職員が全力でクリエイティブにサポートします！

2 中期的目標

1. 【授業革命】で「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成！〈基礎学力の定着と向上〉〈自己肯定感の向上〉〈進路実現〉

（1）全教職員が【授業革命】の旗手となり、そのキーワードとなる「アクティブラーニング」を積極的に実践して「教師力」「授業力」を磨くとともに、生徒の主体的・能動的な学ぶ姿勢を引き出すことで「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力にサポートする。

ア 総合的な学習の時間を用い、生徒が主役の新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、ジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。

イ ICT の活用は定着してきた。今後、情報委員会を中心として ICT の有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。教師のファシリテーションスキルを磨き、授業を最強化し教室が魅力的な学習空間となるよう仕掛けていく。

※全教職員がアクティブラーニングにチャレンジする（チャレンジ率 100%目標）。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いに切磋琢磨して授業の質を高める（授業見学率 100%目標）。

※生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」を H30 以降≧80%、「授業参加度」H30 以降≧80%とする。

ウ 通常授業の冒頭で、「授業のタイトル（めあて）」を明示し、網羅的ではなく内容を厳選して「めあて」を柱とした授業の展開を行う。また、その対として授業の最後に「まとめ」を行い、授業のビフォー・アフターで「1 時間前の自分と違う自分がここにいる！」と思える、成長を実感できるような授業を、全教員が常に提供する。

※授業の「タイトル（めあて）」明示率 H30 以降=100%をめざす。

エ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。

※学力生活実態調査の学力指標 GTZ（H29.9 月：A1～A3=0.1%, B1～3=36.0%, C1～3=44.5%, D1～3=19.4%）で、国公立難関大学を狙える

A ゾーンを H30 以降=3%に。中堅校を狙える B ゾーンを H30 以降=40%に。D ゾーンを H30 以降≦10%に。

※学力不足による留年・中退率（H28=0%）を限りなくゼロに近づけ、年度末の進級率・卒業率を 100%とし、維持継続する。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校（国公立・関関同立）、私立中堅校の合格者を、H30 以降に各 10 人超、100 人超とする。（H29=13 名、112 名）

※卒業時アンケートの学校満足度（計画初年度 H26=87.6%）を、H30 以降は 100%にする。

（2）生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポートし、時間を有効に活用する習慣をつける。

ア 規則正しい生活リズムを作る調査を実施し、啓発・支援活動を通じて、人生の限られた時間を取り戻す。

※自宅学習時間平均 1 時間以上

（3）「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21 世紀型スキルを身につける。

ア H28 年度「学校経営推進費」を活用し、語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニングコモンズとして、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。

※ラーニングコモンズの利用者数、H30≧30 人とする。

※全国高等学校ビブリオバトル（H29:4 大会連続出場）、中高生ビブリオバトル大阪大会（H29:3 大会連続出場）→毎年連続出場更新をめざす。

※ビブリオバトル校内大会を、H30 以降:月 1 回の月例開催をめざす。

イ 日々のすべての授業や活動で、言語技術のマスター、コミュニケーション能力のトレーニングなどジェネリック・スキルのブラッシュアップを意識する。

※言語技術を意識した授業において、基本となる発語、発音、発話を丁寧に指導する。聞く人を意識したコミュニケーションの基本を徹底指導する。

※知的書評合戦ビブリオバトルの指導体制強化など各種の仕掛けで語彙力や CS の増強を図る。

ウ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナルリテラシー）やメディアリテラシーの育成

※教員向けに各種研修を実施し（毎年 3 回以上）、また生徒向けにも実施する。

2 安心安全な学校づくり

（1）安心安全な学園環境を整える

ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。

（2）教育相談体制、サポートの充実

ア S S W（スクール・ソーシャルワーカー）と S C（スクールカウンセラー）を活用して支援態勢をサポートする。

※本校独自にＳＳＷを招聘し、定期的にケース会議を開催（H29=6回実施、）。 イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。 （３）地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化 ア 地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」をめざす。 授業参観ウィークを設定すると同時に、通年で授業を公開する。 ※吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ハンドメイキング部ほか各クラブや、音楽科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒にさまざまに活躍できる場を提供する。 イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、ＨＲ活動、委員会活動、部活動をサポートする。 ※学校教育自己診断「学校行事等が自主的に運営されている」「部活動は活発である」肯定値 80％ ウ 学校説明会を充実させる。 ３．教職員の働き方改革 （１）時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務 80 時間超の延べ人数を削減する。H29 と比較し 2 割減をめざす。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 30 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ほとんどの項目において 2 年連続で前年度より肯定的回答が上回っている。「授業が分かりやすい」が、肯定値 76.8％と、3 年前に比べ 21.0％上昇している。教員の頑張りが生徒に評価されている。今後限りなく 100％に近づけていく取組が必要である。 【生徒指導等】 ほとんどの項目において昨年度より肯定的回答が上回っている。その中で「生徒が交通マナーを守っている」が生徒自身の評価で肯定値 70％弱とマナーの悪さを感じている様子がうかがえる。本校付近の交通事情の悪さも踏まえながら交通マナーを向上する取組をさらに充実させていく必要がある。また、記名アンケートでは皆無であるいじめが、学校教育自己診断では否定値 20％弱と 0 ではない。職員がアンテナを高くするとともに、相談しやすい雰囲気を作っていく必要がある。 【学校運営】 「学校生活に満足している」生徒肯定値が 5 年連続 80％超、「金岡高校は良い学校だと思う」保護者肯定値が 5 年連続 90％超と、それ以前の肯定値が、生徒 70％保護者 80％と比較すると、非常に高い評価を得られるようになってきている。また、教員の学校運営に関する肯定値も上昇している。さらなる肯定値の上昇をめざし取り組んでいく必要がある。	第 1 回 7 月 20 日 ・ＨＰの充実について 行事や部活動の結果をできるだけ更新し広報にも役立ててほしい。 ・通学時の安全確保に工夫をしてほしい。 ・長年続けている語学研修を学校経営計画に載せてはどうか。 第 2 回 12 月 21 日 ・ＨＰの更新について 対応ができていた。 ・雨天時の雨合羽の干し場所を校内に確保してはどうか。 第 3 回 2 月 20 日 ・進路懇談の在り方について、均質な指導ができるように検討してほしい。 ・図書館がきれいになっているので、さらなる活用ができるよう工夫を考えてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習＆生活習慣の確立と基礎学力の定着、進路実現	（１）授業力を改善＆最強化し、基礎学力の定着を支援 ア 情報委員会による授業改善を推進 イ 全授業の冒頭でタイトル（めあて）を明示 ウ 生徒のデータの一元化とトータルな学習支援プランの作成と実践 （２）生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポート （３）「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。	（１） ア・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、成果検証を行い、改善点について全教員で情報を共有する（９～１月）。 ・第１回の授業アンケート（７月）で課題を把握し、第２回（12月）での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ・全授業の冒頭で、その授業の「タイトル（めあて）」を明示する。 ウ・きめ細やかな３年育成トータルプランを描いて、進路実現をサポートしていく。 （２） ア・生活実態調査を実施し、時間管理術を指導。 （３） ア・読書実態調査を実施し、高校生の全国平均（月1.7冊）と比較し、読書を促す戦略を練る。 ・学習支援型図書室ラーニング・コモンズ創設運用利用者がほとんどいない学校のデッドスペースとなっている本校図書室を、生徒の主体的な学びのスペース「学習支援型図書室ラーニングコモンズ」として蘇らせる。当企画は平成28年度学校経営推進費を活用していて、第３次大阪府子ども読書活動推進計画ともリンクさせてこのプロジェクトを実現・推進するために、教科横断的なプロジェクトチームを発足させ、また外部専門家にも協力を仰ぎ、府立高校における新しい図書室のあり方と可能性を探る。また、ビブリオバトルへの参加促進を図る。 イ・日々の授業で、コミュニケーション能力のトレーニングを意識して実施 ウ・ソーシャルスキル（傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等）やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施。	（１） ア・全教員のアクティブラーニング授業実施率 H30≧70%をめざす。（H29＝66.7%） ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」を、H30≧80%をめざす。（H29＝75.0%） ・学校教育自己診断 I C T 関連項目の肯定値 H30≧90%をめざす。（H29＝85.3%） ・授業アンケート「授業改善」≧3.11 をめざす。（H29＝3.11） ・授業アンケート「生徒意識」≧3.11 をめざす。（H29＝3.11） ・「授業互見率」=100%（←全員）（H29＝67.3%） イ・授業の冒頭時タイトル明示率、H30＝100% 目標。（H29＝89.8%） ウ・教育産業の学力生活実態調査における数値について、「平日の自宅学習時間」が平均 30 分未満の学習者 50%以下を維持（H29＝47.1%）、「ほぼ毎日、自宅学習する」30%（H29＝20.3%）、 ・学力生活実態調査の学力指標 G T Z（H29.9月： A1～A3＝0.1%、B1～3＝36.0%、C1～3＝44.5%、D1～3＝19.4%）で、国公立難関大学を狙える A ゾーンを H30＝3%に。中堅校を狙える B ゾーンを H30＝40%に。D ゾーンを H30≦10%に。 ・難関校（国公立・関関同立 H29＝13 人）と私立中堅校の合格者 H29＝112 人を、H30＝13 人、112 人以上とする。 ・現役大学進学率（H29＝48.9%）、H30＝55%をめざす。 ・進路希望実現率 H29＝55.3%を、H30＝56%以上に。 （２） ア・携帯・スマホの使用時間、H30≦2h を目標とする。（H29＝3 h 30m） （３） ア・図書室利用者数、H30≧30 人を目標とする。（H29＝20.4 人） ・高校生全国平均一カ月 1.7 冊を上回る目標について、H30＝5 冊以上を目標とする。（H29＝2.8 冊） 全国高等学校ビブリオバトル（５年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（４年連続）出場と校内大会の月１回実施。 イ・生徒向けの学校教育自己診断の授業参加度は、H30＝80%以上を目標とする。（H29＝79.7%） ウ・教員向け研修、年≧3 回実施（H29＝4 回）	（１） ア・アクティブラーニング授業実施率 H30＝73.1%（○） ・「授業はわかりやすい」を、H30＝76.8%（△）昨年度より目標に近づいた ・I C T 関連項目の肯定値（生徒）H30＝89.1%（△） ・授業アンケート「授業改善」H30＝3.14（○） ・授業アンケート「生徒意識」H30＝3.17（◎）授業が役立っていると感じている生徒が増えている。 ・「授業互見率」H30＝84.6（△） 別途全員参加の研究授業を行った。 イ・冒頭のタイトル明示率 H30＝78.8%（△） 必ずしもポイントを冒頭に設定する必要があるのかという議論をして来年度は目標を変更する。 ウ・自宅学習時間 30 分未満 52.2%（△）１年生が 55.3%と学習習慣が身につけていない。 「ほぼ毎日、自宅学習する」21.3%（△） ・H30.9 A ゾーン 1.5% B ゾーン 41.0% C ゾーン 43.4% D ゾーン 14.1% H28, 29 から比べると B ゾーンの推移は 31.5→36.0→41.0、D ゾーンの推移 21.2→19.4→14.1 と飛躍的に上昇している。上位層の A ゾーンと D ゾーンで目標に届かなかったものの、目標自体高く設定していたのでほぼほぼ満足いく結果が得られたと考えられる。（○） ・難関校 9 人中堅校 98 人（△） ・現役進学率 48.0%（△） 私立大学が合格者を絞り込む中いずれも昨年度を下回った。この中現役で国立大学合格者が 2 名出た。来年度は H29 年度並みの数値をめざしたい。 ・進路希望実現率 56.8%（○） （２）ア 3h30m（△） スマホ等の規制ではなく別の指導を考えていく。 （３）ア ・図書室利用者数 21.0 人（△） ・2.5 冊（△） ・ビブリオバトル関西大会（名称変更）・中高生ビブリオバトル連続出場 校内大会年 5 回実施（△） 行事の関係で月 1 回の実施は困難であった。発表の質は確実に上がっている。学校経営推進費の目標は毎月実施であったが、他の行事との関係で実施は不可能。来年度以降の校内大会は年 3 回程度の実施に変更し内容の充実を図っていく。 イ・80.8%（○） ウ・教育相談を中心に 4 回実施（○）

府立金岡高等学校

2 安心安全でグローバルな学校づくりと環境整備	（１）安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安心安全の確保 （２）教育相談体制、サポートの充実 ア ＳＳＷのケース会議で教育相談支援 （３）地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」 ア 地域や保護者の皆さんの学校参加 イ 生徒が主役の学校づくり ウ 学校説明会の充実	（１） ア・１年生の通学指導を強化し通学路での事故を無くす。 （２） ア・ＳＳＷ中心のケース会議を隔月開催して学級運営や学習支援をバックアップする。 （３） ア・通学の安全確保や各種イベントなど日々の教育活動への地域や保護者の皆さんの積極的な参加を促し、協力事業参加を仰ぐ。 ・授業参観ウィークを設定（11月） イ・「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 ウ・学校説明会の内容の充実を図る。	（１） ア・自転車通学の事故ゼロをめざす。（H29＝事故総数 34 件） （２） ア・ＳＳＷケース会議を年 6 回で開催。 （３） ア・最終進学希望調査府立高校（全日制普通科）の平均以上をめざす。（H29＝1.49） イ 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、生徒の自主運営にゆだねられている。」生徒の肯定的回答≧80%を維持する。（H29=82.1%） ウ・来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の肯定値 90%以上をめざす。	（１） ア・41 件（△） 小さな事故は相当数起きている。 （２） ア・ＳＳＷケース会議を年 10 回開催（○） （３） ア・1.26(○) 平均は上回った。 イ・83.9%生徒の意識も高まっている。（○） ウ・肯定値 100%（◎） 今後は「とても参考になった」85%以上をめざす。 H30=81.7%
3 教職員の働き方改革	（１）時間外勤務の削減 ア 月の時間外務勤務 80 時間超の延べ人数を H29 年度より 2 割削減する。	（１） ア・ノークラブデー・ノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。	（１） ア・H29 年度 4 月～2 月にのべ 89 人であった 月 80 時間超の時間外勤務の人数を、2 割削減し、71 人にする。	（１） ア・H29 年度 4 月～2 月 62 人（◎）3 割程度削減されたが、特定の職員の時間外勤務が多いのでさらなる削減に取り組む。